

(体験による)「農と食を考えてみたら」

25年以上、隔週に東京から長野の飯綱町に行き、リンゴ中心の農作業の経験をしたことを基に、日本の農業についての課題を考え、さらに、世界の人口が1.5倍になるかも知れない21世紀末の世界の食糧と日本の食糧確保の問題等の問題提起をした。

1. 私の農作業

(1) 飯綱町の紹介

長野市の北隣の高原の町、人口約1万2千人、主産業は信州りんごを代表する「果物」

(2) 私の農作業の内容

りんご(出荷用)と畑での40種類以上の野菜、米の栽培を25年以上、隔週に東京から出かけて行って農作業をしていた。

その具体的な作業過程を紹介。

2. 日本の食糧と農業の課題

上記の農作業の経験から、農業の課題を抽出

- ・日本の食糧自給率低下の問題
終戦直後の農業と食生活に戻れば自給できるが、食文化は簡単に戻らない。
- ・農業に必須の肥料、農薬の原材料の海外依存の多さ
- ・農業は石油漬け。石油がなければ日本の農業は全滅
- ・農業の担い手不足、耕作放棄地増加
- ・食文化の洋風化による肉食増加と米消費の低下

3. 世界の食と農業の未来の課題

- ・21世紀末の世界の人口増による、日本の食料確保の困難化への備えの課題
アメリカも人口増により、食料輸出余力が低下する可能性がある。
日本はどのように食料を確保できるのか？
- ・世界の所得増加による肉食増加、生産穀物の飼料化とバイオ燃料への転換
- ・灌漑農地での塩害、農薬多用による土壌汚染、温暖化の気候変動、砂漠化、バッタなどの害虫の異常発生等々、食料増産を妨げる要因の増加
- ・肥料、農薬の原料の特定の国への偏り
- ・将来への希望として、植物工場の芽生え、人工肉の普及、人工光合成の研究開発

4. 結論

若者に希望の持てる農業にしないと日本の農業・食糧問題は解決しない。
しかし、具体的策が見つからない。

以上